

宗教リテラシーを養い、多様性を受容できる人材を育成

関東学院中学校高等学校は森田祐二校長が新たに就任されました。提唱する「OLIVE STREAM」についてうかがいます。

新たな教育ビジョンを発信

入学した子ども達がどんな経験を積み、将来どんな人間に育っていくかというストーリーが見えることは、学校としてとても大事なことです。校長に就任して最初に考えたのは、学校としてのわかりやすいメッセージをどのように対外的に伝えていくかでした。まずはこの学校を理解するために、外部の学習塾や教育事業の方々積極的に会って話を聞きました。そこで感じたのは、関東学院は歴史と伝統のある学校というイメージがとても強い一方、先進的な教育については十分に伝わっていないということです。実際に校内を見渡してみれば、一歩進んだ取り組みや環境が多くあるのに、それぞれが点として存在し、線として結んで発信できていないのだと思いました。

イノベーションとは、必ずしも全く新しいものを創り出すことではなく、今あるものを組み合わせて新たな形で示していくことも一つのイノベーションだと思います。そこで、今ある点を線で繋いできちんと外へ発信しようと考えたのが、教育ビジョン「OLIVE STREAM」です。

科学（サイエンス）、技術（テクノロ

ジー）、工学（エンジニアリング）、数学（マセマティクス）の4つの頭文字を繋げた「STEM教育」は、元々アメリカから始まった理系重視の教育モデルです。そこに創造性を豊かにする芸術（アーツ）や教養（リベラルアーツ）を表すAを加えた「STEM教育」は今、日本でも文部科学省や経済産業省を中心に推進されています。本校ではさらに宗教のR（リリジョン）を加え、教育ビジョン「OLIVE STREAM AM」として発信します。キリスト教をベースとして宗教観を養い、社会や世界への目を開かせて幅広い知識と技能を育みます。

同校が考えるグローバル教育

今の時代、日本においても仕事や生活の場で外国人と接する機会があります。その多くは何かしらの宗教を信仰し、自分の中にある種の哲学のようなものを持っています。一方で多くの日本人にとって宗教観は理解しにくいものです。キリスト教主義学校には聖書や礼拝など宗教について考える時間があり、それを6年間も続けると、自然と宗教を哲学として持つ人達の感覚がわかるようになります。これはクリスチャンであるなしにかかわ

らず、非常に重要な概念です。

キリスト教主義学校である本校が考えるグローバルは、ビジネススキルに長けているとか、英語やマーケティングの知識があるということではありません。多様性を受け入れることができる、あるいは弱小さな声に耳を傾けられることであり、その素養が備わっていることは将来の大きなアドバンテージとなるでしょう。

STEMの面であれば、例えば本校には5つの理科実験室があり、ハイレベルな教育を行っていきます。中でも私が驚いたのは、地学実験室で、普通の学校にはまずありません。本校は理系の割合が文系とほぼ同じで、その割合の高さは実験室を含めた教育の成果かなと思います。

また、Aにあたる芸術や教養の面という、充実した教養講座が挙げられます。韓国語講座や中国語講座なども選択でき、現地の学校とオンラインで繋いで生徒同士がやり取りしています。また、焼き窯やろくろを備えた陶芸室があり、生徒達が創作活動を通じて表現力を養っています。他にも様々な取り組みがあり、それら結び付けて成長への流れ（STEM AM）となっていることを学外へ発信したいと思っています。



関東学院中学校高等学校 校長

森田 祐二

愛知大学文学部英文学科卒業後、名古屋学院中学校・高等学校（現 名古屋中学校・高等学校）に英語科専任教諭として着任
2017年 同 校長就任
2020年 同 学監就任
2021年 4月 関東学院中学校高等学校校長就任